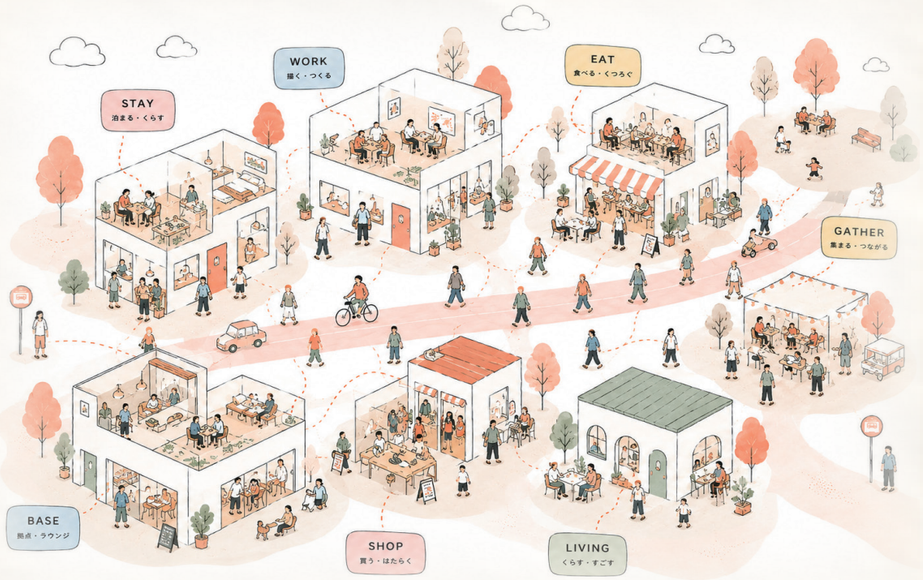
MUNEW もう一度、このまちから。

地方の未来は、このままでいいだろうか。
人口が減り、若い世代が地域を離れ、まちの活力が少しずつ失われていく。
これは新居浜だけでなく、多くの地方都市が直面している課題です。
しかし、私は「地方だから仕方がない」で終わらせたくありません。
人口が減っても、挑戦する人が増えるまちにはできる。
若者が一度地域を離れても「いつか帰ってきたい」と思えるまちにはできる。
「このまちには、まだまだ面白い未来がある」そう次の世代が思える地域を残したい。
その想いから始まった挑戦が、MUNEW(ムニュー)です。
MUNEWが生まれる銀泉街は、新居浜小学校の跡地に生まれた、新居浜で最初につくられた商店街です。かつて多くの人が集い、商いが生まれ、まちの活気を支えてきた場所です。
私たちが目指すのは、昔の賑わいをそのまま取り戻すことではありません。
人が集まり、出会いが生まれ、新しい挑戦が次々と生まれる場所をつくること。
そして、その挑戦が銀泉街から新居浜全体へと広がり、まちの未来を動かしていくことです。

私はこの地域で暮らす中で、いつしか**「自分たちは、このまちに何を残せるのか」**ということを強く考えるようになりました。
会社を成長させること、社員とその家族を幸せにすることはもちろん大切です。そして、その先に何を残すのか。
この地域で育ててもらった会社だからこそ、その成長を地域の未来へ還元していきたい。
MUNEWは、単なる新規事業ではありません。
数年で結果が出なければ終わりにするような挑戦でもありません。10年、20年という時間をかけてでも、
人を育て、挑戦を育て、新しい文化や仕事を生み出していく。
私自身、これからの会社人生をかける覚悟で、このプロジェクトに向き合っていきます。


▲現在の銀泉街

▼MUNEWが描く、銀泉街に複数の機能が点在し、人が行き交うまちのイメージ



子どもたちが「新居浜って面白いよね」「このまちで何かやってみたい」と思える地域にしたい。
そして、振り返ったとき、この場所で生まれた小さな挑戦が、まちの新しい可能性につながっていた。
そんな未来をつくりたい。
その未来は、私たちだけではつくれません。地域を想う多くの仲間とともに、一人ひとりの「やってみたい」を形にしていきたいと思っています。
人口が減るから、未来まで小さくなるわけではない。
このまちの未来は、もっと面白くできる。
私たちが掲げる「未来あふれるまちを」。
その実現に向けて、MUNEWから新しい新居浜を。
私たちは、ここから始めます。

MUNEW

あぜりあ

新居浜市の花『ツツジ』
英名で『あぜりあ』
地域密着の思いを込めて・・・
秋号をお届け致します

発行・編集
シティプラスホールディングス
（白石建設工業グループ）
あぜりあ 編集部
愛媛県新居浜市久保田町3丁目9番20号
TEL:0897-33-4812 FAX:0897-32-8374
http://www.shiraishi-inc.co.jp

令和8年10月 発行
秋号 Vol.59

TOPIC 七福芋本舗

「七福芋」今年も収穫が始まりました!!

七福芋本舗　馬嶋 あゆみ

今年も、白いさつまいも「七福芋」の収穫が始まりました。
春に一本一本植えた苗が、夏の厳しい暑さを乗り越え、土の中で大きく育ち、ようやく実りの季節を迎えています。土を掘り、白い七福芋が姿を見せる瞬間は、何度経験してもうれしいものです。
七福芋は、古くから新居浜市大島で大切に受け継がれてきた白いさつまいも。私たち七福芋本舗では、この地域の大切な味を未来へつないでいくため、栽培の拡大に取り組んでいます。
そして、11月14日(土)には「七福芋祭」を開催します！
昨年はたくさんの方にお越しいただき、会場は大いに賑わいました。実際に畑に入って七福芋を掘る収穫体験をはじめ、七福芋を味わって楽しんでいただける企画を予定しています。さらに、今年も新居浜商業高校の生徒さんたちと一緒に、子どもたちと一緒に楽しめる企画も準備しています。
土に触れ、自分の手で七福芋を掘り、そのおいしさを味わう。そんな体験を通して、地域の皆さんにも、農業や七福芋を身近に感じてもらえたらうれしいです。ご家族やお友達と、ぜひ遊びに来てください！







株式会社 七福芋本舗
［住所］愛媛県新居浜市久保田町3丁目9番27号
［TEL］0897-34-9515
［E-mail］shop@anbun.jp

芋のご注文は
ECサイトより↓

11月14日(土) 七福芋祭り開催!
開催場所：八幡神社
（新居浜市八幡2丁目4-69）
七福芋本舗　馬嶋 あゆみ



コラム

"世間を取り巻く二つのX"

経営戦略部　近藤 志音

皆さまこんにちは。今号より貴田に代わりコラムを担当することになりました、経営戦略部の近藤です。どうぞよろしくお願いいたします。
さて、最近よく耳にする「DX」と「AX」。この二つ、どう違うかご存知でしょうか。「DX」はデジタルトランスフォーメーションの略で、紙やExcelでの業務をシステム化・データ化していく取り組みです。当社では業務一覧表や業務フロー図の作成、Microsoft 365の導入などを進めてきました。
一方「AX」はAIトランスフォーメーションの略。単にシステムを導入するだけでなく、AIに現場の日報整理や工程管理、経営判断のサポートまで担ってもらい、業務の質そのものを底上げしていく取り組みです。当社でも今年から「AX推進運動」がスタートしており、DXで整えた土台の上に、いよいよAIを乗せていく段階に入っています。




経営戦略部
近藤 志音

-GREETING-【編集長 白石 尚寛（よしひろ）】

皆さま、いつも『あぜりあ』をご愛読いただき、誠にありがとうございます。
2026年も早いもので秋を迎えました！
個人的には、今年はトライアスロンに5大会出場することができました。
また最近は、子どものサッカーにもかなり注力しています。
自分自身が挑戦すること、そして子どもの挑戦を応援すること。スポーツを通じて、たくさんの刺激をもらっています。
今回も、直近で特に印象に残った気づきを2つシェアさせていただきます。

1.ヘラルボニー花巻視察
岩手県花巻市を訪れ、ヘラルボニー様の取り組みを視察させていただきました。
「異彩を、放て。」という言葉の通り、一人ひとりの違いを個性や才能として捉え、アートを通じて新しい価値へと変えていく。その考え方に大きな刺激を受けました。
会社も同じで、みんなが同じである必要はありません。一人ひとりの違いや強みを認め、それぞれが自分らしく輝ける場所をつくること。人の可能性を信じることの大切さを改めて学ばせていただきました。



▲ヘラルボニー花巻視察

2.「つながる組織」へ
今年、HRBPを中心に「つながる組織」に向けた取り組みを進めています。
その一つが、部署や役職を越えてメンバーを入れ替えながら行う朝会です。普段あまり話す機会のない社員同士が話し、お互いの仕事や考えを知る。たったそれだけでも、社内のコミュニケーションは大きく変わると感じています。
良い組織は、制度やルールだけではつくれません。
お互いを知り、関心を持ち、困った時には助け合い、挑戦するときには応援し合う。そんな小さな「つながり」の積み重ねが、強い組織をつくるのだと思います。
一人ひとりの個性を大切にしながら、人と人がもっとつながる会社へ。
私自身も、皆さんと一緒にそんな組織をつくっていきたいと思います。
今後ともご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



▲令和8年 内定式


編集長
白石 尚寛

Report

＂令和8年熊本地震　災害支援活動報告＂

土木部　秋月 源弘



被災地の暮らしを支えるために

令和8年7月28日に発生した熊本地震により、停電やライフラインへの被害が発生しました。
白石建設工業は、国土交通省四国地方整備局との災害協定に基づく要請を受け、7月29日に災害対策用照明車による電源支援活動を実施しました。現地の氷川町において、照明車に搭載した発電設備を活用し、避難施設や災害対応拠点への電力供給を行いました。
関係機関との調整を図りながら、機械の運搬・設置・給油・点検・運用管理を実施し、被災地域の生活環境の維持に貢献しました。活動は8月3日まで継続され、九州地方整備局への引継ぎを終え、無事に任務を完了しました。

熊本への支援は今回で二度目

当社が熊本県で災害支援活動を行ったのは、今回が初めてではありません。
10年前の平成28年熊本地震発生時には、阿蘇大橋付近で発生した大規模な斜面崩壊現場において、四国地方整備局からの要請を受けて災害復旧支援に従事しました。当時は、崩落現場で行われた大学生の行方不明者捜索活動を支援するため、遠隔操縦式バックホウを活用し、二次災害の危険がある中で、安全確保と捜索支援に取り組みました。
被災地の状況や求められる役割は異なりますが、「困っている地域の力になりたい」という思いは、10年前も今も変わりません。

災害時に動ける会社であるために

当社は、阪神・淡路大震災、東日本大震災、西日本豪雨災害、能登半島地震など、全国各地の災害支援活動に携わってきました。災害対応で培った経験と技術力は、地域の安全・安心を守る大切な財産です。
今後も当社は、「災害時に動ける会社」であり続けるため、技術力の向上と災害対応体制の強化に努め、社会に貢献してまいります。











TOPIC

株式会社ハピックいづつ様 政枝太陽光発電所システム設置

BtoC事業部
杉野浩平



今回は、新居浜市にあるハピックいづつ様の新設・増築工事に合わせて、自家消費型太陽光発電設備を設置いたしました。
ハピックいづつ様は、給食やお弁当の製造・販売をはじめ、地域の皆様の食を支える事業を展開されています。毎日多くのお弁当を製造・配送する中で、調理設備や冷蔵・冷凍設備など、日中の業務においても多くの電力を使用されています。
今回導入した太陽光発電でつくった電気を自家消費することで、電力会社から購入する電気を減らし、電気料金の削減につなげることが期待されます。また、電力需要の多い時間帯に発電した電気を活用できるため、施設の電力使用状況にも適した設備となっています。
また、今回の建物は弊社の建築部が施工を担当したことから、連携しながら建物と太陽光発電設備を一体的に考え、計画・施工を進めることができました。建物の設計段階から設備について検討することで、より効率的な太陽光発電設備の導入につなげることができました。
今後も、電気料金の削減だけでなく、環境負荷の低減にもつながる自家消費型太陽光発電の普及を進め、お客様の事業を支えるエネルギー提案に取り組んでまいります。
今回のような取り組みを一つひとつ積み重ねていきたいと思います。



BtoC事業部
杉野浩平



TOPIC

生活介護事業所 topa-s オープン!!

青い鳥　堤　洸哉

あつまることで、カタチがかわる。

トパースはこれまで、精神障がい・知的障がい・身体障がいのある方を対象に、障がいの種別を問わず支援を行ってきました。生活介護事業所トパースにおいても、障がいの種別によって利用を制限することはありません。
トパースをきっかけに、さまざまな人が集まり、それぞれの思いや力を持ち寄りながら、みんなで新しいカタチをつくっていく。そんな事業所にしたいと考えています。
私たちは、事業所のカタチを一つに決めません。季節や年度、集まる人、地域の変化に合わせて、活動や支援のあり方も柔軟に変えていきます。そのため、固定されたコンセプトはありません。もし一つだけ言葉にするなら、「あつまることで、カタチがかわる。」
利用者さん、職員、ご家族、地域の方々。集まる人によって、トパースのカタチも変わっていく。みんなと一緒に、その時々に必要とされる場所をつくり続けていきます。



TOPIC
ひめホーム

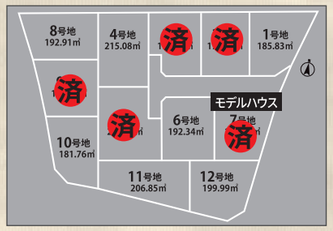
ひめホーム10周年・モデルハウス・分譲地情報in四国中央市

BtoC事業部　阿部 凱凌（カイリ）

平素よりひめホームをご愛顧いただき、誠にありがとうございます。
私たちひめホームは10周年を迎えることができました。これまで、ただ家を建てるだけでなく、お客様一人ひとりの暮らし方やご家族の想いに寄り添い、「この家にしてよかった」と思っていただける住まいをご提案することを大切にしてきました。お客様の不安や疑問を一つ一つ解消しながら、安心して家づくりを進めていただけるようサポートしてまいります。これからも、お客様との出会いを大切にし、長く安心して暮らしていただける住まいをお届けしていきます。
現在、四国中央市中曽根町にモデルハウスを公開中です。このモデルハウスの計画地は、白石建設工業による初の区画分譲地（12区画）で、現在販売中です。



ひめホームこだわりのモデルハウスを是非ご覧いただき新しいお住まいについて提案させていただけると幸いです。
また、新居浜市瀬戸町に11月中旬、新しいモデルハウスがオープン予定です。ぜひご期待ください。
今後も、関わるすべての人が笑顔になれる住まいづくりを目指し、スタッフ一同、誠心誠意取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



▲区画図



▲四国中央市 中曽根町1406-1

ひめホーム
hime home
0120-33-2022
〒792-0026　新居浜市久保田町3-9-20
本社：白石建設工業株式会社
特定建設業 国土交通大臣許可（特-4）第26760号
宅地建物取引業 愛媛県知事（3）第5405号
Instagram
HP
ひめホーム
阿部 凱凌